



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 9 月 5(水)～8 日(土)
大槌町の仮設商店街にウッドチップ舗装 編

7 月の木橋架設に続く復興支援第 2 弾は、砂利が敷かれていても雨天時には水たまりができて歩きにくい仮設商店街の歩道をウッドチップ舗装してしまおう！というものです。7 月にいただいたトヨタ財団の研究費を早速、活用させていただきました。

被災地でのウッドチップ舗装は、下記のような思いから大槌町で提案してきました。

- ①町内から瓦礫がなくならなければ復旧・復興は進まない
- ②倒壊した家屋の柱や梁、津波による流出木・塩害木などは町外処理を待つのではなく、自前処理も考えるべき
- ③秋田でのウッドチップ舗装のノウハウ：抜根のように泥だらけでもOK、毘沙門憩いの森公園では公共工事ではなく、技術者の指導により常盤ときめき隊主体で実施し、その後は自前で実施している。大規模な専用機械がなくてもできる。
- ④国主導の進まない事業をただ待つより、地域で処理できる木質性災害廃棄物は、地域の力による復興まちづくりに活用する方が自立にも繋がり、早く処理も進むのでは？

しかしながら、見たこともやったこともないことを災害後の混乱時に取り組むことはとても難しいことで、興味や意欲のある方はいても、どこですか、どうやって材料を調達するか、費用はどうするか、誰がするかなどなかなかタイミングが合わず震災から 1 年以上が過ぎていました。

トヨタ財団の申請書を作成した当時は、ぬかるみのひどい仮設の役場庁舎前を想定していましたが、8 月には新庁舎に引っ越ししてしまうため、大槌北小学校グラウンドにできたきり商店街が候補にあがりました。ここの歩道はアスファルト舗装されていましたが、そこに車が入り込んできて危険なため、車と歩行者空間を明らかに区別するのに用いてはどうかというものでした。しかしながら、グラウンドをコの字型に囲む全部分を財団からの研究費で賄うことは難しく、1 辺だけでも実験的にさせていただけないかと提案しましたが、商店街に不公平感が生まれるとのことで、ここでの実施も見送ることになりました。

蕨打名(わらびうちな)地区につくられた仮設住宅団地の隣には、わらびっこ商店街という店舗数 10 の仮設商店街が造られました。敷地に砂利はまかれましたが、排水が悪く、雨天時には各商店に水が入り込むことがあっても、仮設が



分別され沿岸部に堆積していく木質ガレキは 1 年たっても一向に減りません。



毘沙門憩いの森公園でチップ舗装をする常盤ときめき隊の方々。



コンテナをつなげただけの仮設庁舎。屋根はかかっていてもあちこちに水たまりができて、砂利道は歩きにくい。



校庭の大半は駐車場となり、それを囲むようにきり商店街が並びます(上)。アスファルト舗装と駐車場の間をウッドチップ舗装できたらと考えましたが・・・(下)。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

解消される時には元の水田に戻さなければならないため、アスファルト舗装はなされていませんでした。7月20日、佐々木先生と現地を訪れ、商店前にチップ舗装の歩道を敷設させていただくことに決めました。

9月5日、工事前日はあいにくの雨でしたが、おかげで雨天時の状況がよくわかりました。

翌日からは予報どおり雨があがり、暑い暑い数日間が始まりました。チップにする木材はNPO法人吉里吉里国(以下、吉里吉里国)の皆さんが伐採したもので、津波によって枯れてしまった塩害木です。吉里吉里国は震災をきっかけに、これまで誰も見向きもしなかった森を再生するために間伐をしながら雇用を生み出し、持続可能な地域をつくらうとできたものです。このメンバーの方々にウッドチップ舗装のノウハウを知っていただき、大槌の復興まちづくりの力になっていただけたらと考えました。

秋田からの技術指導には、研究所からは山内秀文准教授、企業からはネットワークでもお馴染みのウッディさんないの熊谷さんと高橋さんをお願いしました。

吉里吉里国やボランティアの方々には随分と頑張ってくださいましたが、馴れない作業、手違いや予想外のできごと、予想以上の猛暑などが重なって計画通りには全く進まず、予備日としていた8日も頑張りましたが完成を見ず、最終的には当初予定の2倍の日数がかかってしまいました。

ひと月後に熊谷さん、佐々木先生と現地を訪問し、商店街の方々にその後の様子を伺いましたが、これまでのような雨天時の浸水は全くなく、雰囲気も明るくなり、歩きやすいと高評価をいただき安堵しました。

これからの経過を観察し、反省点を生かしながら次に繋げていけるよう成果をまとめたいと考えています。

文：渡辺 千明

NPO 法人吉里吉里国の HP : <http://kirikirikoku.main.jp/index.html>



大雨でもないのにあちこちに大きな水たまりができ、店舗入り口にたまっていました。



塩害木の端材もチップにしました。



チップパーは木高研から運び、吉里吉里国やボランティアの方々が作業にあたりました。



まずは掘削と整地。これが予想以上に大変でした。熊谷さんも見かねて作業します。



木枠の中に糊と混ぜたウッドチップを入れていき、上から転圧します。



最終予定日だった3日目ようやく1辺がほぼ完成しました。



完成後の舗装道は予想以上にできあがりも評判もよく、一同安堵しました。



裏手のトイレ前は正方枠に入れる方法で材料も一部変更して実験施工しています。